

E 7 レジオネラ・ニューモフィラとレジオネラ症発生の特性及びその予防と対策についての一考察
中京短大 安達和俊

目的 1976年、米国、フィラデルフィアで新たに発見された、極めて至命率の高いバクテリアである、レジオネラ・ニューモフィラについて調査し、我が国における、その予防と対策について考察する。

方法 1980年、このバクテリアを、初めて公式に掲載した、アップルトン・センチュリークロフト社のジンサーマイクロバイオロジー第17訂及び最新の第19訂の、このバクテリアに関する章を、同社の許可を得て翻訳し、両者を比較検討することによって、我が国における、このバクテリアによる同疾患の発生に対する予防と対策について検討する。

結果 上記の方法によって得られた諸情報に於ける様々な観点から、その予防と対策として、特にこのバクテリアの至適温度（30°～35°迄）、水耐性（空調システムから得た水によって培養され、流水にて少なくとも415日間生存）から言って、空調が冷房として使われる遅い夏（7～10月）、空調のフィルターの汚染除去（切り通しからのほこりが伝染の源泉として関与したこともあった）或いは清浄（アルカリ性清浄剤等）、消毒（1%フォルマリン、70%エチルアルコール、10 P P Mヨード、0.125%グルタルアルデヒド、1:8000第4級アンモニウム溶液、0.0021%フェノーリックスへの1分間の暴露）、排水設備の完備及び消毒（設備一前記に同じ、排水一50%ジデシルアンモニア塩化物、20%イソプロピルアルコール等）、このバクテリアの至適CO₂値（2.5%、培養時濃度5%）から言って、室内の換気等について、特に抵抗力の衰えた高齢者、病人、喫煙者等の多く集まる場所（ホテル、病院等）において配慮すべきであると考察した。